

「地域づくり活動計画」策定のための構成団体意見交換（ヒアリング）結果まとめ

団体名	①自治会連合会 (刀根山・蛭池自治会連合会)	②公民館 (刀根山公民分館)	③福祉委員会 (豊中市刀根山校区福祉委員会)	④防犯刀根山支部 (豊中防犯協議会刀根山支部)	⑤赤十字奉仕団 (豊中市赤十字奉仕団刀根山連合分団)
意見	<p>(仲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治連は、各団体の事業を自治会の会員に伝えるのが主な活動となっている。 ・自治会数、会員数が少なくなり、自治会ごとの会員数も大きく異なっている。 ・自治会同士の連携というよりも、ただ事業を伝えているだけかもしれない。 ・それぞれの自治会が状況にあった活動をしている一方、主体的、積極的に活動していない自治会もある。 	<p>(岡本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間での交流が希薄だと感じている。 ・役員は刷新できておらず、参加する者も固定されている。 ・事業を終えてのフィードバックについては、人が集まらず上手くできていない。 ・事業を終えた後に、住民の方から「そのような事業をやっていたんですね」と言われることもある。 ・「そもそも分館とは何か」と聞かれることもある。 	<p>(小林・仲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーに高齢者が多いため、コロナでほぼ全ての活動が止まっているが、メンバーも元気でやっており、ただコロナの終息を待つのみ。 ・悩みというのはあまり無い。 ・部長が中心となって活発に活動している。 ・自治会のない地区も含めて独自に全戸配布などでPRをしている。 ・社協と連携して活動できている。 ・メンバーは70～80名程いる。 ・メンバー集めについては、活動に参加した方にアピールし部会で1年やっていただく。 ・一本釣りもしている。 ・1年中アンテナを張って若い人も見つけている。 	<p>(遠藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーは76名（男46、女30）おり、各自治会から推薦して頂いている。 ・防犯は人、防災は自然災害を対象としている。 ・保険について、女性は市から、男性は地域で負担している。 ・市の従来事業の青パトは廃止、年末夜警は中止などコロナの影響もあり、事業の見直しを行っている。 ・地域の見回りが主な活動となっている。 ・防犯の方では、来年から環境整備を新たに始める予定。 ・刀根山では、ひたくりが減少したが、代わりに特殊詐欺が増えている。 ・自治会のない地域については、その地域で中心となってくださる人を探して、会としてサポートしている。 	<p>(工藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤十字奉仕団という名称は、正式には赤十字奉仕団刀根山連合分団という。日赤と奉仕団の違いは何かと聞かれることが多いため、奉仕団という名前に統一した。 ・役員は、若い人では50代であるが、多くは60代以上となっている。役員の引継ぎなどは、若い役員の方がやってくださると考えている。 ・担当看護師として現役の看護師の方が現在3名いるが、災害が発生した場合には不足すると考えられる。 ・現役を退いた看護師の方加わっていただけるように考えている。 ・活動は、各種事業のほか、刀根山独自に災害時の炊き出しと心肺蘇生法を行っている。 ・募金の一部が事務費として支給される。役員の保険はここから賄われるが、ここのお金はあまり使っていない。 ・住民の健康管理はもともと市の健康推進委員会があり、これを引き継いでおり、健康診断、体力測定、パワーアップ体操、がん検診が関係していた。
展望等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会を含めて全住民をカバーできる体制。 ・自治会活動が活発になること。 ・自治会の維持に向けた活動が必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・当団体と事業の両方で知名度が低く、PRが不足しているため、PRの仕方を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協との連携で独自に活動できているので問題がない。 ・高齢者等の情報は独自に入手しているが、民生・児童委員会との情報共有が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会がない地域への防犯・防災面でのサポートをする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人に役員を上手く引き継げるかどうか、検討する必要がある。 ・担当看護師など、災害時に対応できる人材を確保する必要がある。

「地域づ」

団体名	⑥刀根山小学校PTA	⑦民生・児童委員会	⑧青少年健全育成会 (青少年健全育成会 刀根山地区委員会)	⑨とねやまオヤジの会	⑩共同募金会 (刀根山・蛭池自治会連合会 刀根山地区共同募金会)
意見	<p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規約については、令和2年に作られたものであるが、よい保護者・よい教職員という人はそれぞれ考え方が異なるため、この規約は時代にそぐわないと思う。 ・役員については、会長が1名だけだと負担が重く会長が決まらなかったため、会長職に2名置く共同代表制をとっている。(豊中第八中学校は共同代表制をとっている) ＜(清水) 共同代表制だと、会議などに毎回それぞれ別の人が出席することとなるため、対外的にはあまり良くないかもしれない。＞ ・会長は、健育の推進委員、人権推進、自治協運営委員、公民分館など、当て職がある。そのため、会長は当て職による負担も大きいと思う。 ・地区委員会については、60地区に分かれて集団登校している(近年は、地区の統合が進んでいる)。この他には、危険箇所の発見・対処、転出入者の情報管理などを行っている。 ＜(仲) 地区委員と自治会が関わることは無いが、公民分館と連携して体育祭を行うことがある。＞ ・PTA役員18名のうち男性は1名だけ。男手が必要だった行事の手伝いを募集しても、男性で集まったのは20名だけだった。 ・PTAに加入していない人を不当に扱うことは勿論できないため、「PTAに入るメリットは何か」と聞かれることがある。 ・PTAが絶対に必要な仕事は無いかもしれない。ただ、PTAが無くなると学校側は困らしい。 	<p>(林・備後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーについては、定員数が19名であるが、現在18名であり1名欠員がある。 ・3年ごとに改選を行い、定年は75歳。年齢層は、40代の方もいるが、多くは60代以上であり、委員の後継者が不足している。 ・主な活動として、悩み相談や独り暮らしの方の見守り、豊中市と連携して赤ちゃん訪問などを行っている。 ・豊中市の広報誌やふるさと刀根山で連絡先などを記載して、そこからの問い合わせもある。 ・コロナの影響で2年間ともに活動できず、WebMeetingも使っている。 ・仕事や猛暑などで活動が難しい。昼間の会議が多く、連絡先が重要なので特に仕事をしている人の参加は難しい、無理に参加しなくても良いと言っても、参加しないことへの心苦しさがある。 ・個人情報の取扱が厳しいため、民生委員会と福祉委員会の情報共有は制度的に難しい。 	<p>(石川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員は66名いるが、活動しているメンバーは少なく、同じ人が様々な団体に活動している。 ・子どもを介することによって、新しいメンバーが加わるのではないかと。夏フェスの店舗を子どもにやらせてもらうなど、子どもを取り込むと親がついてくると思う。 ・チャレンジャーズや、ソフトボール、バレーボールなどのチームの連帯は強い。 ・自治協運営委員会は役人的でとつきにくく、運営委員会は全く楽しくなかった。 ・昔在籍していたPTAでは、コーヒーマーを置いたりして楽しかった。また、会議の前に体を動かしたり、〇〇のポイントゲットの情報提供など、参加することが楽しくなる仕掛けがあった。 ・2018年6月の地震の際は、PTAでは保護者がLINEやメールなどで連絡を密にとることができたが、自治協組織では健育にしても連絡がとれる状況ではなかった。したがって、最低限メールは把握できるようにする必要があるのではないか。 	<p>(小檜山)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動メンバーは、15名。構成員は、小学生を持つ父親が主で、年齢は40代が多いが30代の方もいる。 ・メンバー募集は、コロナ前ではピラなどを配布していたが、コロナ禍で(活動ができなく)行っていない。 ・コロナ前は知名度が高くなっていて、コロナで活動できなくなり知名度が落ちた。 ・今の小学生は3年間活動がなかったため、当初予定していた夏祭りは予定を変更して行う。 ・今後も子供たちの笑顔のために活動していきたい。 	<p>(藤吹恵子・仲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は独自の募金活動を行っていたが、現在は自治会を通してのみ募金を行っている。 ・自治会に依頼することから、以前は自治会の活動の一環として共同募金を行っていたが、自治会を自治協からはずすについて、自治会連合会以外に運営委員会に自治会関係の共同募金会を独立した組織として存立させている。 ・自治会に入っている人は募金するが、入っていない人は募金しないこととなり、不公平という声もある。 ・また、自治会に入っている人は募金や自治会費を支払うため、「お金だけ払って何もしてくれない」という意識が生まれてしまう懸念もある。
展望等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員のなり手不足を解消すること。 ・PTAが無い小学校もあり、そもそもPTA組織が本当に必要かどうかを考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員のなり手不足を解消すること。 ・活動を通して取得した個人情報を地域の情報として共有できるようにし、セーフティネットの機能を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員において、活動しているメンバーと活動していないメンバーを整理する必要がある。 ・実際に地域活動ができるメンバーを集める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の団体との横のつながりを強化すると共に、小学生父親だけでなく、様々な人が参加できるようになる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募金活動は自治会を通して行われているため、自治会がない地域や自治会に入っていない人への働きかけについて、検討する必要がある。 ・募金は任意であるが、募金の趣旨などを徹底する必要があるのではないか。

「地域づ

団体名	①若水会	<その他の意見>
意見	<p>(膽吹忠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーは92名おり、そのうちの約7割が女性。 ・若水会は、老人連合会の地域組織であり、豊中市に認められている団体のため、自治協などの他の団体に関わってくる理由が分からない。 ・財源としては、老人連合会や清掃活動を通して豊中市から受け取る自主財源がある。 ・歩こう会やゴルフなどは自己負担がある。 ・三つの若水会と一緒に活動する方が良いとは思いますが、わだかまりが少しある。 ・活動に出てくる高齢者の安否確認組織の機能がある。 ・役員の名前などは、あまり出したいと思っていない。 	<p>(仲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協ができたことによって悪い影響が出た。それは、新しい事業を始めるにあたって、お金だけ負担するがその他の負担が全て各団体に発生するため、自治協ができる以前に各団体だけでできていたことが、負担が重くなっただけということ。 <p>(膽吹忠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(上記の意見を踏まえて)市はどのような理由で自治協をつくったのか。 ・なぜ自治協が、そこまで各団体に関わってくるのか理由が分からない。 <p>(備後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自治協が各団体に関わる理由が分からない」という意見はとても大事だと思う。各団体みなそのように思っていると思う。 ・わざわざ対面で会議をしなくてもよいのではないか。 <p>(笹：一般住民)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の役員の若返りを図ったり、組織をコンパクトにした方が良い。 ・映画観賞会などは簡単にできる。 ・HPを活用するなど、デジタル化を進めるべき。 <p>(難波)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金(予算)の話ではなく、自治協と住民との関わりに重きを置いて議論を進めていきたい。
展望等	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交流組織としては入会、退会が簡単にできるように門戸を開いた方が良くように思われる。 	